

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域
「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」
研究開発実施終了報告書

1. 研究開発プロジェクト

- (1)研究開発領域：犯罪からの子どもの安全
- (2)領域総括：片山 恒雄（東京電機大学 教授）
- (3)研究代表者：池崎 守（特定非営利活動法人さかいhill-front forum 理事長）
- (4)研究開発プロジェクト名：子どもの見守りによる安全な地域社会の構築ハート・ルネサンス
- (5)研究開発期間：平成19年10月～平成23年3月

2. 研究開発実施の要約

現在、わが国で重要な命題となっている教育再生・地域再生に対して、地域の子どもの安全をテーマに広く人をつなぎ、討論を重ね地域社会の新しい形態を見つけ出します。普及する携帯電話やインターネットのツールを活用し、日本型オリジナリティに富んだ安全なまちづくりを進めていく中で、価値観の違う人と人のネットワーク・世代を超えた人と人のネットワークを構築し、理想とする地域社会を創りたいと考えています。

①安全・安心ステーションを地域に構築

当 PJ においては、文化会館を安全・安心ステーションに位置付け、堺市立東文化会館を拠点に地域の子どもの見守りを行いました。

②位置コードを組み込んだ GPS 携帯を使った子どもの見守りシステムの活用と検証

経路作成ツール（世界特許）ルートビルダーを組み入れ、GIS 上への通学経路作成や子どもにとって警戒ゾーン等の設定を可能にすることができる機能を使い、子どもの見守りを行いました。

③情報共有システムを構築し、評価・検証・改善…社会実装をめざす

子どもの見守りを起点とした地域社会のつながりを再構築するための一つのツールとして、広く住民が活用する目的で情報共有システムを構築しました。住民の使いやすさを考え、改善を繰り返しました。また、当初サーバに組み込んで利用を図りましたが、維持管理のコストが高く、最終年度にクラウド型情報共有システム「情報広場」を構築しました。これにより、専門的な技術要員がなくても運用でき、維持管理も安価ですむので広く社会実装できることをめざしています。

④地域 FM 局の開局と情報発信

平成22年3月3日に予備免許交付され、6月6日より本放送を開始しています。地域の高校生・中学生の参画も得、子どもの見守りを実践している住民も参加していただき、上記「情報広場」との利活用を進めながら放送を実践しています。

⑤人をつなぎ、世代をつなぐ活動の実践…地域社会の再生と人材育成

子どもの見守りをテーマにした議論と活動を実践する中で、地域での人のつながり、世代のつながりが深まります。地域の新たな課題も提起され、その課題解決に向けてより活動が活発になり、子どもの見守りだけでなく、ICTを活用した活力あるまちづくりを進めたいと考えています。

2-1. 研究開発目標

子どもの安全をテーマに人と人のネットワークを構築し、理想とする地域社会を創ることを目標にしています。子どもの見守りを通じて地域社会の安全・安心の向上をめざすための研究であり、その成果は研究終了後も継続して実施していく計画です。ICTツールを活用した当PJの当面の対象は、地域の子どもたちであり、子どもの犯罪からの安全ですが、めざすのは、地域社会の安全・安心の向上であり、研究成果を全ての住民が享受できるよう努力したいと考えています。ツールは単に介助役にすぎません。した

がって、ツールの機能を改善し、維持コストも考え、適切に使うことにより、人と人のコミュニケーションを活性化し、価値観が異なっても世代を越えた人と人の情報ネットワークが構築され、日本型の安全な地域社会をつくることが期待できると思っています。

犯罪からの子どもの安全を成し遂げるため、住民・警察・学校・行政・企業が一体となって取り組みます。現在日本に広く普及している携帯電話やインターネットを活用し、また地域FM局も立ち上げ、国の命題である教育再生・地域再生をめざしたいと思います。そのためのツールとして、①位置コードを組み込んだGPS携帯を堺市東区登美丘地区の児童にもってもらい、経路作成のルートビルダーも投入し、その有効性を評価・検証します。②人をつなぐ情報共有システムを構築し、ICTを有効に活用した子どもの見守りを実施します。③地域FM局を立ち上げ、子どもも参画した地域情報の発信を行い、行政・学校とも連携した子どもの見守りを実施します。④ツールを活用するだけでなく、積極的な住民による子ども見守りを実践し、ツールとの利活用も図ります。

堺市東区の登美丘地区において、遠距離通学の私立小学校の児童には主に通学路の見守り、地元公立小学校の児童には放課後の見守りを行い、有効で最適な子ども見守りのシステムモデルを提案し、検証したいと思います。住民にとって、また行政との情報交換を進める上でも広く普及した携帯電話やPCを利用した情報共有システムはこれからの社会に有効なツールとなると考えています。位置コードと地図情報を内在する情報共有システムを立ち上げ、子どもの見守りを行いながら、その活用を広げていきたいと考えています。また、地域FM局を完成し、日頃子どもの見守りを実践している住民の皆様の意見を発信し、見守られる子どもたちも参画し、特に警察とは密接に連携した情報発信をめざしたいと考えています。朝のあいさつ運動、通学路の見守り、清掃活動、スポーツ活動等子どもも参加する活動も実施し、上記のツールの評価・検証そして改善を進め、安全な地域社会の構築をめざしたいと思います。

子どもの見守りをテーマに構築したシステムを改善し、広く社会に貢献できることを願っています。また、これらのツールも利用した住民活動により、地域の課題解決に向けた人のネットワークが構築され、地域再生に一步でも前進できることを願っています。

2-2. 実施項目・内容

2-2-1. 実施項目

- IT技術を活用しての子どもの見守り
 - 1) GPS携帯を利用しての子どもの見守りを実施
 - 2) 位置コードの子どもの見守りシステムへの適用及び利活用
 - 3) 情報共有システムの社会実装に向けた構築
 - 4) 「情報広場お試し版」の構築
 - 5) 子ども見守りサイトをiDC（インターネットデータセンター）に構築し運用
 - 6) 地域・学校連携しての運用
- コミュニティFM局の開局による子どもの安全への放送実施
 - コミュニティFM局 機材の配置完了 予備・本免許の取得
 - 「エフエムさかい」の開局と放送実施
 - 動のエフエム局と静の情報広場との利活用を図る
- 世代をつなぎ・人をつなぐための活動の実践
 - 文化芸術活動 スポーツ活動 あいさつ運動 子育て支援 清掃活動等

2-2-2. 実施内容

- ①位置コードを組み入れたGPS携帯を使った子どもの見守り
 - 位置コードを組み入れたことにより、地図との連携がより深化し、GISとして有効になったと思います。また、ルートビルダーの投入により、経路作成が地図上で可能になり、出発した家から、到着する家までの通学路のみならず、外出時の一人一人の見守りを実現できました。高精度GPS衛星「みちびき」が打ち上げに成功したことにより、より位置情報の精度を上げることが期待できます。
 - 保護者からの子どもの位置検索は、利用度が高く、安心感につながる意見が多く寄せられました。また、通学経路をルートビルダーにより地図上に作成できることにより、経路

逸脱時の通報が保護者や学校へ知らせることができる機能は、特に私学の小学生に活かされたいと思います。GPS 機能を使った携帯電話とGISシステムによる見守り、住民の情報共有できるシステムを組み合わせた地域での子どもの見守りは、先行事例のない見守りであるゆえに、ツールを地域住民が充分使いこなせない現状ではありますが、PJ終了後も今回の研究で得られたソフトを企業が継続して実施していく中で、社会生活に有意義なツールとなることをめざしたいと考えています。携帯電話の使用については、さまざまな問題が提起されています。今回のPJを通じて、携帯電話の効用について家族間での話し合いがもたれ、親子間の対話が進むことを期待しています。

学校とPTAの話し合いももたれ、当地区では携帯電話を持つことに賛成していただき、その後もフィルタリングより問題なく利用してもらっています。今後ネットいじめ等、課題となる問題にも前向きに議論を深めたいと考えています。

- ②情報共有システムについては、当初サーバにシステム構築して利用を始めましたが、住民が利用しやすいように、また維持管理が安価で済むように利用者体感を重視した設計のもとにクラウド型情報共有のシステム「情報広場」を立ち上げました。これにより地域の様々な情報を共有することができ、また情報発信も可能となりました。研究期間終了後も継続した利用が可能です。このシステムを社会実装へとつなげるため、お試し版を構築し、日本全国どこからでもユーザ体験できる環境を設置しました。東日本大震災の被災地における情報共有への利用も提案しています。石巻市、東松島市のための環境設定を済ませました。地域にあった機能強化も必要ですが、今回の災害による日本の地域再生に少しでも役立つことを願っています。
- ③地域FM局は、現在すでに放送中で今後リスナーの拡大を求めたいと考えています。朝からの子どもの見守りを通じた放送を実施し、毎日警察との連携による防犯情報、子どもへの絵本・児童書の読み聞かせ、地元医師による相談コーナーの収録による放送も行っています。目の見えない方からの期待も大きく、行政からの依頼も増えてきました。中学生・高校生による放送も実施し、子ども自らの企画による情報発信により、子どもの目線からの安全の発信も行っています。子ども弁論大会での子どもの主張等もFM局から流し、日々の生活の中での見守り活動に留まらず、FM局に参画することで子ども自身の活動も、より活性化するものと思われます。また、防犯の観点だけでなく、地域での話題が広がり、人のつながりの深化が図れると期待しています。何よりも防災の役割を期待する住民の方が多いので、今後防災情報の発信も充実していきたいと考えています。
- ④GISと情報広場、そして地域FM局の協力を図り、子どもたち自らの活動・子どもたちを巻き込んだ種々の活動も応援できる拠点を堺市立東文化会館に構築してきました。また、現在進めている堺市東区の住民と行政によるまちづくり会議「東区民会議」にも提案し、住民の利用により広く普及できることを願っています。公立の会館に子どもの安全の拠点を設けることは、どこでも可能であり、設けることで、地域の課題が提案され、人の活動の輪が広がると思います。私たちの活動も当初始めた防犯活動からはるかに進化し、はるかに多くの住民を巻き込めたと感じます。また、これらの活動が子どもの見守りに還元されていると思います。

堺市立東文化会館を拠点に堺市東区登美丘地区の小学校にIT技術を活用した子どもの見守りシステムを導入し、実験期間中の毎日の通学、放課後や休日の外出などで保護者や学校、地域の連携による子どもの見守りを実施しました。利用状況はアンケート調査を実施し、アンケート調査の結果を基に議論を重ねました。情報共有システムを活用しての研究を進めるために住民の方々に利用説明資料をフォーラム開催時や種々の地域活動・イベント開催時に配布しましたが、十分な利用がされていない現状がありました。アンケート調査結果やシステムログによる利用状況の解析により研究者と住民で議論を重ね、子どもの見守りシステムとして社会実装に必要な機能や操作性などを洗い出しました。そこから、研究の最終年度で、子どもの見守りとして有効となる機能を確定し課題の改善策を検討しました。それにより社会実装に向けたクラウド型の新たな子どもの見守りシステム「情報広場」を立ち上げました。

コミュニティFM局の開局には、乗り越えるべきハードルが多くありましたが、平成22年3月3日に念願の予備免許を交付していただきました。平成22年6月6日から防犯ひよこ隊長の谷昭信氏をメインパーソナリティとして「エフエムさかい」の本放送を行っています。

す。

本格的に放送を開始したことで、犯罪からの子どもの安全をテーマに、様々なアプローチによる情報発信ができることを願っています。また、「情報広場」がFM局開局による情報発信に対するコミュニケーションの場としてその役割を活かすことができると期待しています。

2-3. 主な結果・成果

○ I T技術を活用しての子どもの見守り

①位置コードを組み入れたG P S携帯を使った子どもの見守り

子どもの見守りシステムをi D Cに構築し、G P S携帯・経路作成ソフト（ルートビルダー）を利用して、子どもの見守りを行いました。住所や地図を補完して全ての場所を均質に誰でも認識できる位置特定手段「位置コード」…標準地域メッシュの地域区画を基準として全国をシームレスに検索できる数値コード…を体系化して導入し、住所がない場所でもピンポイントで位置を検索できるようにしました。公開型のグーグルマップで位置コード検索を行うサイトも立ち上げていたので、場所の特定と伝達を容易に行うことが可能でした。また、経路作成のソフト（ルートビルダー：世界特許）を投入し、それぞれの児童が家から学校までの通学路の経路を作成し、ゾーン・通過点設定等により、まさに玄関口から学校の門までの見守りを実施しました。遠距離通学の児童にとっては有効な活用ができたと思っています。公立小学校においては、通学ではなく、むしろ生活空間での見守りを携帯電話を利用して行いました。主に、放課後や休日での子どもだけの外出には有効でした。また、子どもから親の位置を確認する利用などにより、携帯電話についての親子間の意見交換により、先端技術への関心とマイナス面を克服できる親子関係の深化が図れるものと感じました。自閉症の児童の位置確認には大きな効果がありました。

堺市東区登美丘地区の小学生（私立740名・公立4校20名）に所持してもらい、3年6ヶ月子どもの見守りを行いました。地域において小学生の通学、放課後よく集まる場所に防犯カメラの設置を進めています。防犯灯の整備も研究プロジェクトの議論をふまえて進めました。

見守りサイトをサーバに構築すると、大きな維持コストを要します。サーバにかかる維持管理…ネットワーク、通信回線、S S L認証、ソフトウェア等…、そして年々生まれる携帯電話の新機種への対応が困難になる可能性もあります。社会実装するには、機能集約とコスト集約することが重要だと思いました。高精度G P S「みちびき」により、今後G P S機能は日常生活に有用な役割を果たすことになっていくと思います。子どもの安全にも、現在誤差のある位置精度が改善され、より正確な位置把握とともに、高齢者の見守りをはじめ、さまざまな活用が期待されます。今回のP Jの成果をより社会に活かすことができるように、クラウド型情報広場を構築しました。またG P S機能をG I Sとつなぐことにより地域社会に活用されるI C Tになると思います。維持コストを安価にするためデータセンターのプライベートサーバ環境からこのシステムのプラットフォームをP a a Sにおいて必要とする機能を「情報広場」に集約することにより、各自が所有する一般の携帯電話でも利用可能になり、維持コストを大幅に軽減した社会実装モデルとして提案するに至りました。

・G P S携帯電話の活かし方

子どもの見守り

- 1) 子どもの現在位置確認（登下校時、放課後の遊び・塾通い）
- 2) 子どもの交通機関利用状況確認
- 3) 子どもによる両親位置の確認（両親が不在の時等）

住民の見守り

- 1) 徘徊老人の位置確認
- 2) 独居老人の安否確認

その他、防災面において地図情報によるハザードマップと避難経路表示

②情報共有システムの構築

地域住民が抱える安全・安心のための課題は、数多くあります。特に、当P Jを進めていく中で、人が集まり、議論することにより地域の課題が多く提起されました。それらを取りあげ、地域共通の課題として住民が協力して解決を図っていくためには、住民が同じ情報を共有し、同じ視点に立って実践と行動をするために、時々刻々と変化する情報を取捨選択しやすい形式で提供できるシステムが必要と考えました。子どもの見守りの情報は、このP Jでは最も大切ではありますが、コミュニケーションの活性化を図るには防犯情報の共有だけでなく、楽しむための情報共有、学ぶための情報共有も大切であり、そこで築かれた人間関係が犯罪からの子どもの安全にもつながると思っています。

・情報共有の活かし方

通常時

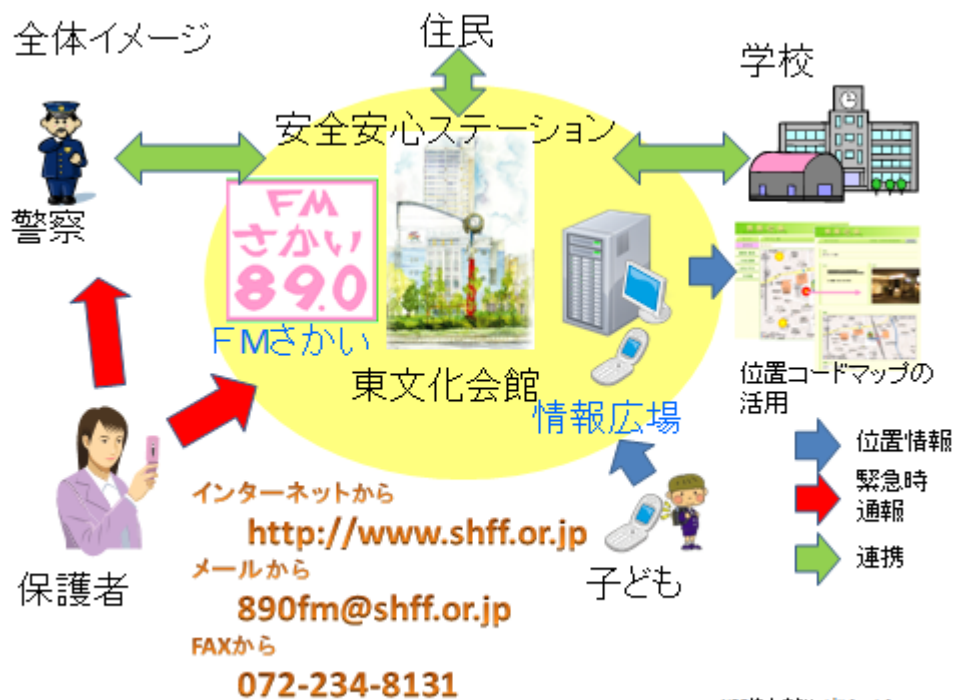
- 1) 東文化会館の催し物案内とその感想等
- 2) 日常生活での疑問・相談の投稿とその回答（子育て、医療、教育等）
- 3) 堺市東区内の連絡事項（区からの連絡、町内会の連絡等）
- 4) 学校の案内（催し物、休校、保護者会等）
- 5) 地域FMの放送案内等（番組表の発信や話題のプログラムの案内等）

緊急時

- 1) 災害・事故の通報（火災、自然災害の発生→発生場所や規模 等）
- 2) 通学電車、バス等の運行変更状況
- 3) 不審者情報（場所、状態等）
- 4) 災害情報と避難勧告（台風時や防災無線が聞き取れない時は有効）
- 5) 災害弱者情報（町内会メンバーが名簿を共有する）

また、GIS情報の内容を補強する情報を同時に提供することで、より豊富で確実な情報群とすることができます。文字ばかりでなく、写真や地図情報を添付することにより、閲覧したメンバーは同じ情報を共有できるので、共同で地域活動を行う時は、同じ意識に基づく活動が可能になると感じます。

当P Jにおいては、当初サーバに構築した情報共有システムを①にも記したとおり利用者体感を重視し、維持管理の安価な方法であるクラウド型「情報広場」に進化させました。これから本格的に利用を進めていくところです。機能強化も必要だと考えています。目的に合った、地域の特性に合ったカテゴリーを設定でき、地域に合った必要な機能強化を図る事により、実生活に役立つ「情報広場」になると思っています。また、下記の地域FM局との利的活用により、より住民のコミュニケーションが進み、子どもの見守りをはじめとした地域のまちづくりに寄与するものと思います。



東文化会館とエフエムさかいはホームページからもリンクしています。

・東文化会館 <http://www3.ocn.ne.jp/~buntaro/bunkahall>

・エフエムさかい <http://fm-sakai.net>

ツイッターにも情報が公開されます。

・ユーザー名 @890fmsakai

情報共有システム 全体イメージ



- ・東日本大震災（平成23年3月11日発生）

当PJで構築した「情報広場」のシステムを被災地においても使っていただくことを提案しています。専門的な技術要員がなくても運用でき、維持管理も安価で済むので、自治体をはじめとする情報発信や住民の閲覧・書き込み等を通じて地域社会の構築に活かすことを願っています。それぞれの地域のニーズ

に合わせた機能強化は必要とは思いますが、地域での情報共有が最も求められている被災地には最適な情報を共有するツールになると思っています。災害自治体の自治体対策本部、自治体職員、避難所、ボランティア団体、避難所での住民、他地域へ避難した住民、これらの人をつなぐタイムリーな相互情報を連携することにより、有効なコミュニケーションツールになるものと思います。また、当地区においても、さまざまな集まりの時に紹介しながら、平常時での活動にも活かしたいと考えています。

- ・ 広く社会に実装していただくため、「情報広場お試し版」を設置しました。以下のURLからご確認いただけます。

最初は一般公開情報が表示されます。（お試し版では紹介資料）

通常ユーザでログインしますとサンプル情報が見れます。

以下のIDで通常ユーザの閲覧ができます。

メールアドレス：otamesi@jhiroba-mimamori.jp

パスワード：ota0001

http://jhiroba-mimamori.jp/info_jhiroba/main/index

③コミュニティFM局の開局と放送

平成22年3月3日、予備免許取得。平成22年6月3日、本免許取得。

平成22年6月6日より本放送開始。

識別信号J0ZZ7BJ-FM エフエムさかい

電波の型式 F8E

周波数 89.0MHz

空中線電力 5W

最大実効輻射電力 15.3W

放送区域内の世帯数 35,144世帯

送信所・演奏所は堺市立東文化会館文化ホール



地域FM局では子どもの見守りニュースの他、まちづくりの各種情報を放送しています。地域密着情報を提供していくことをめざしています。

- 1) 子どもの見守りについては、現在警察と密接な連携のもとに放送しています。警察署・消防署また行政と連携したニュースをメインパーソナリティの谷昭信氏（登美丘地区防犯ひよこ隊の隊長）を中心としてNPOの若いメンバーにて放送を実施しています。山田智之氏を中心に番組のプログラムを行っています。子どもの見守りを実践している住民の方々もゲストに迎え、緊急時には警察とのホットラインをつなぎ、放送する体制を整えています。学校からの不審者情報にも即座に対応して放送します。
- 2) 子どもたち参加の番組
現在地元の中学生・高校生が参画して放送を実施しています。学校生活の様子や学校での嬉しい話題を中心に放送していますが、参画してもらった子どもたちが、学校生活の中でも活発になり、学校では分からない子どもたちの一面が放送に参画することで表れてきたとの話が先生方からあります。
- 3) 弁論大会での子どもたちの意見は収録して放送しています。
- 4) 絵本の読み聞かせや児童書の読み聞かせは、毎日放送しています。
- 5) 東文化会館ホールでの安全・安心まちづくりコンサートやピアニストと地元小中学生とのコラボによるコンサートは、生で放送しています。
- 6) 携帯電話よりの声をそのまま放送できますので、地域で見守りをしている住民の声を放送し、子どもたちの声も放送しています。
- 7) 文化芸術情報・行政情報・まちづくり情報の放送も充実していきたいと考えています。現在、所轄警察署の防犯まちづくり情報は、ほぼ毎日収録した上で放送しています。

8) 今後の課題

今後、内容の充実を図り、a) 住民の興味を引き、かつ長続きする番組の配信をめざす、b) 当FM局の存在と周波数、そして番組の周知に心がけることが重要だと思います。

例えば、a) に関する対応策として、ア) 長続きする番組を提供する。例えば、民話や文学賞受賞作、ベストセラー、時代物や巨匠の作品を曜日を決めて朗読する。聴きたい本の投票をリスナーにしてもらい、視聴者の参加を促す（開票状況は実況で、投票はホームページから）。イ) 地域の人が興味を持ち、聞きたくなる番組をつくる。例えば、堺が輝く3つの時期を中心に堺市周辺の歴史探訪と解説（古墳時代、南北朝時代、安土桃山時代の会合衆による自治）。

また、b) に関する対応策として、ホームページでの掲載を基本とするが、特番や目玉としている番組については情報広場にも掲載し、周知を図りたいと考えています。また、地域や学校あるいは、駅頭にも番組表の配布を行っていききたいと思います。

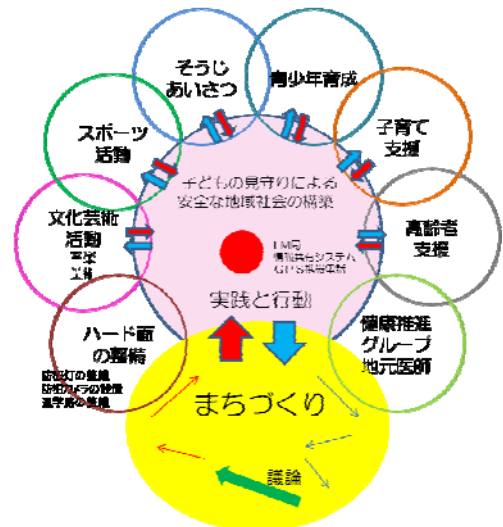
安全・安心な地域社会の構築に向けて、緊急時に役立つ放送、例として専門家によるハザードマップや必要な行動についての解説、災害時対応についての解説、また実際の緊急時には、警察・消防と連携し、放送した後、その内容を情報広場に要約し、情報発信することを実現していきたいと考えています。災害時には、断水・停電・救援等の状況を伝えたいと思います。情報広場との利活用を図ることにより、位置情報を関連情報によって補強することで、より有効性が生まれると思います。

東文化会館は当PJの推進により、さまざまな活動のために住民が集まるオープンスペースとして運用できているので、今後、自由記入の白地図を設置し、それによる情報収集、いわばアナログテク手法による情報収集と情報共有を書き込んでもらい、デジタル（白地図の結果を情報広場に載せる）とアナログ（FM局からの発信）の両面から情報を伝えていきたいと考えています。また、東文化会館にPCを設置し、自由に使用していただく環境を整えることにより、より情報広場の使い方

を広めていくことができると思っています

④ ツールを活用しての地域の活動の実践と行動

活動拠点の整備・ツールの獲得・人をつなぎ、世代をつなぐ実践と行動により、あらたな地域社会が生まれると思います。実際、このPJに取り組むことにより、東文化会館を拠点として、また上記のツールを活用することにより、住民のネットワークのみならず、関係機関との連携が深まりました。さまざまな機会での議論により、地域の課題が提起され、住民自らその課題解決に向けての組織体が生まれたと思います。右の図に示したように地域での活動の広がり大きく、課題も多くなりましたが、それぞれの課題解決に向けてのそれぞれの活動が地域を活性化し、犯罪からの子どもの安全には大いに役立ち、防犯まちづくりにも貢献していると思います。地域活動が新しい社会を構築する。住民が主体となった活動を進めることで、実効ある行政との連携が生まれ、本来の協働する自治体になるものと感じています。入口は防犯、出口はまちづくり。警察との信頼関係も日々高まり、そのことが子どもの安全だけでなく、安全な地域社会の構築に前進できるキーだと思いました。



地域での活動の一端を写真で紹介します。



月に1回の合同パトロール前のフォーラムの開催



合同パトロールの様子

会議の一風景



朝のあいさつ運動



文化芸術を通じての活動



防犯スポーツ活動



地域子どもたちの交流会
お茶会も開催

実際にフィールドとして活動した堺市登美丘地区の街頭犯罪発生状況を下記に参考として記します。

登美丘地区における犯罪発生状況							
	平成12年～平成22年						
	ひったくり	車上ねらい	部品ねらい	自動車盗	オートバイ盗	自転車盗	街頭犯罪 総合計
12年	116	90	52	27	80	113	539
13年	82	244	65	40	95	154	725
14年	69	203	71	42	81	159	661
15年	42	119	77	201	102	134	518
16年	28	67	55	19	89	106	377
17年	22	67	82	16	100	130	428
18年	25	63	76	17	57	157	403
19年	14	42	75	15	39	151	353
20年	10	36	52	9	30	119	265
21年	20	32	69	6	22	189	344
22年	12	23	41	3	17	17	114

⑤活動のつながり・活動の広がり



大阪府内での意見交換会



滋賀県大津市にて



大阪府大東市防犯活動委員会での講演



国立教育政策研究所からの視察・意見交換

- 1) 上記④に記したように、地域内での活動は今回のP Jを通して非常に活発になりました。ツールを活用することによりまた、東文化会館を拠点にすることによって、より多くの住民の参加が得られ、若い世代の参画も多くなり、さまざまな課題解決に向けての地域活動が活発になったと思います。
- 2) 大阪府だけでなくいろんな場所での意見交換会にも参加し、堺市東区登美丘地区での子どもの見守り活動を広げることができると感じています。地域での防犯まちづくり活動を主体としたFM放送は全国にも類がなく、この特徴を活かした放送を続けていきたいと思っています。隣接する大阪狭山市の住民組織の皆様からは、連携したFM放送を実現して欲しいとの要望があり、今後情報広場も含めてつながりを構築したいと思っています。
- 3) NHK放送局による報道（平成22年7月14日・15日に取材、ニューステラス関西・おはよう日本でもニュースとして報道されました）・読売新聞や朝日新聞・毎日新聞にも記事として取り上げていただき、各地から大きな反響がありました。また、シンポジウムへの参加や各種広報誌にも取り上げていただき、人のつながりの広がりを感じています。

⑥成果の活用

- 1) 「情報広場」を東日本大震災の被災地である宮城県石巻市と東松島市に導入するための環境設定をしているところです。岩手県陸前高田市においては、まずFM局の準備を手伝い「情報広場」も構築して評価・検証していただく予定です。当P Jの成果がどの程度貢献できるかについては今のところ未知数ではありますが、東北の復興は日本の復興そのものであり、人と人を結ぶツールの一つとして役立つことを願っています。情報を共有することにより、地域の課題を共通の課題として住民が協力して解決を図っていくことができると考えています。大切なのはface to faceだと思いますが、ICTの普及している現代社会において有効に活用できるものと思います。

- 2) F M局は地域の特性に応じた放送が可能です。子どもの見守りから出発した F M放送ですが防災まちづくりにも画期的に役立つと思います。また当 P Jを進めている中で地域の課題解決のために生まれた種々の活動等、また子ども自らも参画できる放送により、より人のネットワーク・世代のつながりが生まれ、今後のまちづくりに活きると思っています。
- 3) 行政・学校はじめ各種関係機関と住民のつながりが深まりました。人のつながりが深まる事により、新たな地域社会の構築をめざすことができると思います。I C Tを活用した住んで楽しいまちづくりが、安全安心まちづくりになると感じています。
- 4) 住民自らが参画するまちづくりにも有効です。日本を支える次代の人材に地域の中で育っている実感があります。地域での人材育成にも効果が期待されると思います。
- 5) 構築した位置コード、G P S機能を活用したシステムは高齢者の見守りや観光案内等にも活用でき、高精度 G P S「みちびき」の地域社会での活用の評価検証につながるものと思います。他の P Jとの連携も深まり、人のネットワークが地域だけでなく広く構築されることにより、互いに学びあうなかでお互いが高まることになると感じています。
- 6) 公立の堺市立東文化会館を拠点として整備したことで、公立の会館の在り方にも一石を投じることができたと思っています。さまざまな課題をもった住民が集まりますので、文化芸術だけでなく、広く住民が集い、地域社会をより良く変革するエンジンになることを期待しています。

2-4. 研究開発実施体制

(1) 体制

「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」グループ

- ① リーダー名 特定非営利活動法人さかいhill-front forum 理事長 池崎 守
- ② 役割 協議会統括
協議会事務局
地域活動推進
F M放送局運営

(2). 研究開発実施者

① 「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」グループ

氏 名	所 属	役 職	参加時期
池崎 守	特定非営利活動法人 さ かい hill-front forum	理事長	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
渡士 晶子	特定非営利活動法人 さ かい hill-front forum	副理事長	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
金澤 秀郎	大阪府立登美丘高等 学校	前学校長	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
中野 泰三	大阪府立登美丘高等 学校	学校長	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
高橋 勝	堺市 東区役所	前区長	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
岡 秀吉	初芝学園	統括部長	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
奥野 浩	はつしば学園小学校	事務長	平成 21 年 4 月～23 年 3 月

村上 卓己	中部日本電気ソフトウェア株式会社	エキスパート	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
早草 寛	堺市立登美丘南小学校	学校長	平成 20 年 4 月～23 年 3 月
武田 敬	アクスト武田	代表	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
五十嵐 幸	株式会社ナイス	工学博士	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
安 貞憲	株式会社 NESI	主任技師	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
西岡 徹	有限会社 NC プロジェクト	代表取締役	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
谷 昭信	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 21 年 4 月～23 年 3 月
三原 拓	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 22 年 8 月～23 年 3 月
山田 智之	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	プログラマー	平成 21 年 4 月～23 年 3 月
稲田 貴弘	テクニカルソフトウェア株式会社	SE	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
岩見 恵美	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
高橋 直子	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
中條 宏樹	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 20 年 4 月～23 年 3 月
大黒 亜美	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 20 年 4 月～23 年 3 月
小林 直樹	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
安田 卓弘	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
金城 友美	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 19 年 10 月～23 年 3 月
池崎 里美	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 20 年 4 月～23 年 3 月
晋山 昌子	特定非営利活動法人 さかい hill-front forum	正会員	平成 20 年 4 月～23 年 3 月

(3). 研究開発の協力者

研究開発を実施する上で研究開発チームのアドバイザーとして参画していただく。

明治大学教授	山本俊哉氏
大阪市立大学特任助教	佐久間康富氏
黒山警察署長	村上安弘氏
大阪府警察本部	小嶋典明氏
堺市元副市長	高橋保氏
作家	濱野成秋氏
作家	浅田宗一郎氏